

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホーム すずな 1丁目		
所在地	長崎県長崎市愛宕1丁目11番1号		
自己評価作成日	平成22年2月	評価結果市町村受理日	平成22年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人内の病院が隣接していることにより医療面の協力体制が整っており、併設施設の管理栄養士による協力体制のもと、栄養面の健康管理が充実しています。
繁華街に近い場所に立地していることを活かし、ショッピングや美容室等へ利用者の要望に沿って個別の外出支援を行ったり、屋上ベランダや畑を活用し、季節を楽しみながら、趣味の園芸活動や地域の方達との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地にほど近い高台にホームはある。同敷地内に法人医療施設があり緊急時の協力体制は万全である。また地域医療機関でもあり同ホームも近隣住民へ周知されてきている。日頃から自治会、婦人部、民生委員との情報交換、情報共有を行っており、消防訓練への参加など地域一丸となって利用者を見守る体制が整っている。また、家族との繋がりを大切にしており、利用者のために職員とともに話し合う環境ができています。介護計画の目標は自立支援に繋がっており、利用者が希望する園芸や手芸、書道や食事の準備など利用者それぞれの希望を支援することが穏やかな生活に繋がっている。現状に満足することなく常に新たな工夫を取り入れ、サービス向上に向かっていくホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に沿って地域の中でその人らしい生活を支えていくという観点から、地域住民の方達との交流を進めている。また、利用者一人ひとりの「その人らしさ」について考えながら、実践に繋げられるよう話し合いを行なっている。	前年度の外部評価を踏まえて職員全員で話し合いが行なわれ「私たちはこの地域のなかでご家族と共にあなたがあなたらしく穏やかな生活が送れるように努めます」と理念が作成された。毎月のカンファレンスで具体的な支援を話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人部の会合に出席して交流できる機会をつくったり、利用者と共に、周辺の散歩や地域のスーパー等への買い物等を行ないながら、気軽に挨拶を交わしたり、地域の中へと外出する機会をつくっている。	同施設4階を自治会や地域へ開放しており、婦人部から陶芸教室、健康教室等のお誘いがある。日常的には散歩時の挨拶の交流が行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、認知症の方への理解や支援の方法等について話し合ったり、電話等の相談にも出来るだけわかりやすく丁寧な対応を心掛けて説明を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議の場で行事や外出支援等の報告また、事故・ヒヤリハット等の報告を行なっており、身体拘束に対する考え方や取り組み等について話し合っている。	運営推進会議は今年度4回、規定のメンバーで開催された。事業所からは外部評価、事業所の状況報告が行われ、参加メンバーから介護保険制度等の質問や利用者の個別外出支援などの提案があり、職員とも話し合われている。	運営推進会議では地域、家族、行政からの情報・意見交換が充実してきており、省令に規定されている年6回開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの職員に出席してもらい、意見や地域の情報を聞きながら協力関係を築いている。また、介護相談員の受け入れを行なっており、利用者の相談によって、その後の協力が得られている。	介護相談委員を年1回受け入れている。また、介護保険の更新時に担当職員から意見や情報を得ている。母体の医療機関に在籍するケースワーカーと市担当者との橋渡しをするなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なう事の弊害を理解し、職員全員が委員として身体拘束ゼロを目指しており、日中の施錠は一切行っていない。エレベーターが自由に使用できる為、日頃から目配り、気配りを心掛け、利用者の状況把握に努めている。	全職員が身体拘束委員として身体拘束のゼロを理解している。しぐさや声の大きさなど気になる対応は、その場で注意し合い、リスク事例などユニット会議で話し合われている。利用者の状況に応じて家族、職員、管理者で話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇については、職員同士がお互いに注意し合えるような関係や環境を目指しており、特に目には見えない無視や言葉の掛け方等にも注意を払っている。		

グループホーム すずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で職員は学ぶ機会を得ており、将来的に必要なと思われる人については、関係者と話し合いを行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行なって理解していただけるよう努めている。利用者、ご家族の不安に配慮し、疑問点が浮上した場合には、いつでも説明を行なう旨伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前に意見箱を設置しているが、今まで意見が入っていたことがない。日頃よりご要望等があったら、遠慮なく言うてくださるよう伝えており、口頭でお聞きする事が多い。その都度話し合いをもって解決出来るように、また誠意のある対応ができるように努めている。	家族の訪問時に直接家族からの意見を聞くように心がけている。遠方の家族とは電話連絡を頻繁に行っており、意見を言いやすい関係作りに努めている。運営推進会議参加家族からも職員やホームに対する意見を聞くよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から会議の場以外でも、意見を出してくれるよう話をしており、出来るだけ多くの職員の意見や提案を聞いて、運営に反映出来るよう努めている。	管理者は毎月のユニット会議に参加し、職員から介護に関する意見や要望を聞き取り把握している。出前・外食は法人栄養士に連絡して相談をする支援や、入浴補助器具購入など提案は検討し実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員の意見を聞きながら、職員がやりがいや向上心を持って働くことが出来るよう、職場環境や条件の整備に努めている。会議や勉強会に出席する職員の手当て支給や、介護職員の交付金の申請を行ない、給与のUPを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行ないながら、外部研修の機会を確保しており、担当看護師の協力のもと内容を検討しながら、定期的な施設内の研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の地区研修会に出席し、お互いに学び合う機会をつくっており、意見交換や情報意交換を行ないながら、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会って出来る限り聴く機会をつくり、信頼が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を出来る限り聴き、困っていること、要望等を受け止め信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めることは難しいが、他のサービスも含めた選択肢ができるよう説明を行なうなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや洗濯たたみなど、一緒に行なっている。会話の時間を大事にし、時には人生の先輩として、悩みを相談したり教を乞うたりしている。また、一日一日を一緒に楽しく過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には、受診結果や最近の様子等について些細なことも伝えるようにし、状態を把握していただけるよう心掛けており、何かあれば協力をお願いして、連携が図れるよう努めている。また、面会時にはゆっくり一緒に過ごしていただけるよう見守っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中で情報を得て、支援できるように努めており、友人や知人の方の面会があつている。外出にはご家族の協力を得ている。電話の取次ぎをしたり、利用者が便りを出すこともあり、こちらからも声掛けを行なっている。	入居時のアセスメントの他、会話の中から馴染みの関係を把握し、関係継続の支援について検討している。家族や知人に年賀状を出したり、声を聞きたい時には電話を掛けている。自宅帰宅、墓参り等の支援も行っており、家族と近所知人の面会があるなど関係継続に向けて取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、食事、体操、おやつなど利用者が集えるような場を作っている。会話にはスタッフも一緒に入って談話を楽しんだり、共同で行なえる作業やレクリエーションを工夫している。利用者同士の相互訪問もあつており、見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も病院にお見舞いに行き、ご本人と会う機会をもっている。また、ご家族からの電話があった時には、お話を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、利用者の思いや希望を聴いてそれに沿ったケアが出来るよう心掛けており、職員間でも情報を共有し話し合っている。	会話の中で希望を聞き、その日に実行出来ないことは翌日に行なうよう検討している。表現が困難な場合は、顔の表情で判断したり、ホワイトボードや紙に書いたり、身振り手振りで思いを把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既存の情報を読んだり、利用者や、ご家族からの話を聞いたりしたことを職員間で共有し、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日実施している夜勤者から日勤者へ、日勤者から夜勤者への細かい申し送りやチェックシートへの記録等によって情報を共有し、また日々の様子観察を行ないながら状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族の話を聞いたり、受診時に主治医に情報を伝え指示をもらったり、必要に応じて管理栄養士や担当看護師の意見も聞きながら定期的にユニット会議を開き、話し合っ介護計画を作成している。	入居時は短期目標で1ヶ月の介護計画を作成し、次回から短期3ヶ月で見直しをしている。毎月のカンファレンスと評価を介護計画に活かしている。見直し時期の前に家族から意見を聞いたり、遠方の方は電話で聞いて原案を作成し、家族の同意を得ている。次年度から職員の担当者制を検討中である。	次年度から職員の担当者制が実行されれば、全職員が介護計画原案作成から関わることになるため、更なる質の高いサービスを提供されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日チェックシートに個別の記録を記入し、ケース記録には実践の記録や様子等を記入しており、その他気づき等も含めて申し送りノートに記入して、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お話を伺いながら、出来る限り要望に沿った柔軟な対応が出来るよう努めているが、全ての職員が柔軟に対応できているとはいえない		

グループホーム すずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さつまいもの植え付けや収穫等ご家族や自治会の方々の協力を得て行ない交流を楽しんだ。また趣味の短歌を地元の新聞に投稿される支援等を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿って、出来るだけかかりつけ医の継続を支援しており、ご家族が付き添えない場合は、職員が付き添って受診し、主治医への情報提供を行ない指示をもらっている。	かかりつけ医の継続を支援している。家族が受診介助の時は一週間分のバイタル記録を提供している。歯科は週に一度往診がある。法人医院受診後、希望や紹介の医療機関移行も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している担当看護師や当直看護師に情報を伝えて相談したり、受診の指示を受けたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病棟看護師やソーシャルワーカーに情報を伝えたり、退院に向けて、情報交換や主治医への相談等行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、ご家族の方全てに説明し、同意をいただいている。事業所で出来ることについては、状態によって個別にご家族と担当看護師も交えて話し合っている。	重度化した場合の対応に関する指針が作成されており、家族への説明し、同意を取っている。状況に応じて主治医、家族を交えて対応を話し合っている。職員は看取りについて理解しており、その都度チームとして支援する体制ができる状況であるかを全員で検討して、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は法人内で行なわれる救急救命の研修を順次受けている。また、担当看護師に協力してもらい、施設内で勉強会を行なっており、事例の少ない中で、職員全員が実践力を身に付けられるよう努力しているが、まだ十分とは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の避難訓練を行なっており、地域の方にも参加してもらって、協力体制をとっている。	年2回の避難訓練は利用者も参加して行なっている。夜間想定も行われ、自治会の参加もあり連携も取れており、消防署からは避難誘導のアドバイスも受けている。災害時は建物が自治体の避難場所であり、非常食の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を傾聴し、心のこもった声掛けを心掛けており、言葉に注意しながら、敬語を中心に時には方言も交えて対応している。情報を共有しつつ、内緒にしてほしいという利用者の気持ちには十分配慮するようにしている。	トイレ誘導の声かけは耳元で行っている。入浴更衣室にのれんで目隠しをしてドアの開閉に注意を払っている。申し送り時、利用者の前で名前を出さないように配慮し、個人記録は事務棚に保管され、守秘義務の誓約書も作成されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう際には利用者の意思を必ず伺うようにしている。出来るだけ促しではなく？の形で尋ねるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合せて食事時間をずらしたり、出来るだけ一人ひとりのペースを大事にケアを行なっており、買い物等の希望にも沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことができる方は好きな服を着ていただき、出来ない方には、ご家族が用意されたものや職員が選んだ服でおしゃれしてもらっている。外出時には、お化粧品を手伝って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューに合わせて利用者と一緒に食器を選んだり、盛り付けを行なっている。味付け等不満が聞かれることもあるが、給食会議で伝えたり、調味料を添えたりしている。安全に注意しながら、配膳や下配膳等手伝ってもらっている。	月1回の給食会議や随時気付きがあれば食事連絡帳に記載して調理室に伝えている。利用者の咀嚼に合わせた盛り付けをし食事を楽しんでいる。おやつ作りや、プランターの野菜を食卓に活かすなど工夫している。利用者は配膳や下配膳を手伝い、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供している。食事摂取量を記録し、状況によって管理栄養士に相談して必要であれば捕食や栄養ドリンク等の支援を行なっている。水分摂取量は毎日記録しながら、職員間で連携し不足しないよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守りを行なったり、自分で出来ない方には、毎食後口腔ケアを行なっており、義歯は洗浄剤を使用して清潔にしている。		

グループホーム すずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら、時間を見てトイレ誘導を行っている。失敗が少なくなるようパターンの把握に努めている。	基本的に全員トイレ介助を行なっている。その為、排泄と水分のチェック表を作成し、時間をみて声かけ誘導を行っている。夜間のみポータブルを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て水分量を増やしたり、運動を促したり、トイレ誘導時に腹部マッサージを行なったりしている。主治医に相談しながら、痛み等に配慮し、個々に応じた薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな方には体調を見て、本人の希望に沿って実施しているが、職員不在で安全面が確保できない場合は実施出来ない事もある。拒否気味の方は無理に勧めず、様子を見ながら声掛けを工夫したりして、必ず本人の意思を確認してから実施している。	毎日午前中から午後3時30分まで同性介助で行なっている。入浴チェック表を作成し、期間が空いた方には職員が回数を多く声かけをしている。拒否時は声かけや清拭などで対応している。好みの石鹸、シャンプー、また入浴剤、炭等を使用して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分で動けない方は、様子を見て足を挙上したり、体を横にして休めるよう支援している。寒い時は、寝る前に床の中や居室を暖めたりして、安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして、いつでも確認できるようにしており、把握出来るよう努めている。また、様子観察し主治医、看護師との連携を図っている。服薬介助のマニュアルを作っており、服薬介助時はマニュアルに沿って実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道が好きな方には皆で歌う歌詞を書いてもらったり、園芸が好きな方には草花を育ててもらったり、短歌を詠む方には、発表の場をつくらせたりと個々に応じた支援を行なっている。また、会話や散歩、ドライブ等の外出支援で気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った外出が出来るよう努めているが、時には希望に沿えないこともある。ご家族へ協力を依頼している。	天候や状況に応じてベランダでの園芸や、周辺の散歩を行っている。また、馴染みの美容院、ショッピングセンター等の外出を個別に行っている。花見、ランタン祭り、紫陽花見学など季節の外出を企画し全員で出かけている。	

グループホーム すずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方も本人や家族と話し合っ、大きいお金は事務所に預けてもらっている。希望によって数千円ほど所持いただき、買い物等自分で支払われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人、家族に宛てた手紙や葉書を職員が預かってポストに入れている。電話は自分の携帯でかけたり、公衆電話を利用したり、時には頼まれて職員が連絡したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節感を取り入れた飾りつけを行ない、居心地良く過ごせるような工夫を行っている。	リビングは明るく、季節の飾り物がされている。利用者の行動しやすい調度の配置である。浴槽の手すりは各ユニットの利用者の状況に応じて取り付けられている。テレビの音量や職員の会話も穏やかである。清掃も毎食後行われ、換気や湿度も適度に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外の場所にもソファや椅子を置いて、憩える場所をつくっている。気候のいい時には、屋上ベランダでゆっくり過ごせるようにベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が思い思いに家具や馴染みの好みの物を持ち込まれている。時にはご家族と相談しながら、模様替え等の支援も行なっている。	利用者は馴染みの物の持込み、家族の写真・時計等が飾られている。また、馴染みのソファなどの調度類も持ち込まれており、裁縫道具、書道用具など所有されてる方もいる。掃除は毎朝職員が行い、快適な居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、車椅子でも十分移動できる広さがあり、廊下には手すりが設置されている。状態の変化に沿って、浴室・脱衣場には手すりが追加されているが、更に工夫や検討すべき点もある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホーム すずな 2丁目		
所在地	長崎県長崎市愛宕1丁目11番1号		
自己評価作成日	平成22年2月	評価結果市町村受理日	平成22年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人内の病院が隣接していることにより医療面の協力体制が整っており、併設施設の管理栄養士による協力体制のもと、栄養面の健康管理が充実しています。繁華街に近い場所に立地していることを活かし、ショッピングや美容室等へ利用者の要望に沿って個別の外支援助を行ったり、屋上ベランダや畑を活用し、季節を楽しみながら、趣味の園芸活動や地域の方達との交流を図っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に沿って地域の中でその人らしい生活を支えていくという観点から、地域住民の方達との交流を進めている。<その人らしさ>について考えながら、実践に繋がられるよう話し合いを行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人部の会合に出席者と共に、周辺の散歩や地域のスーパー等への買い物等行ないながら、気軽に挨拶を交わしたり地域の中へと外出する機会を作っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場をとして認知症の方への理解や支援の方法について話合ったり、電話等の相談にも出来るだけ分かりやすく丁寧な対応を心掛けて説明を行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議の場で行事やが外出支援の報告また、事故やヒヤリハットの等の報告行ない、身体拘束に対する考えや取り組みについて話合っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営意推進会議に、毎回地域包括支援センターの職員に出席してもらい、意見や地域の情報を聞きながら協力関係築いている。また、介護相談員の受け入れを行っており、利用者の相談によって、その後の協力得られている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なう事への弊害を理解し職員全員が委員として身体拘束ゼロをめざしており、日中の施錠は一切行なっていない。エレベーターは自由に使用出来る為、日頃から目配り、気配りを心掛け利用者の状態把握に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇については、職員同士がお互いに注意し合える関係や環境目指しており、特に目に見えない無視や言葉の掛け方にも注意している。		

グループホーム すずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も必要な人に支援できるように管理者及び職員も共に学んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行ない、理解して頂るように努めている。不明点等も随時説明行なう事伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が直接伺う事があり、その都度、話し合っ解決出来るよう努力し、今後も話安い信頼関係を築いていきたい		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でも意見等伝えてくれるように話している。日頃から職員の意見を聞きながら運営に反映出来るように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員の意見を聞きながら、職員がやりがいや向上心を持って働くことが出来るよう、職場環境や条件の整備に努めている。会議や勉強会に出席する職員の手当て支給や、介護職員の交付金の申請を行ない、給与のUPを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後必要な研修等現場職員の意見を聞きながら、外部研修参加の機会確保し内部研修についても担当看護師や職員等の意見を聞き、意欲の向上やレベルUPが図れるよう取り組んで生きたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡評議会の地区研修等にて同業者とのネットワーク作りやお互い学びあう機会を設けている。今後も交流の機会を確保しサービスの質向上に繋げたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身から出来るだけ多く話を聞く機会を設けて信頼関係を築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から出来るだけ多く話しを聞く機会を設けて信頼関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めの重要性を踏まえ出来る限りの対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に笑ったり、励まし又時には昔の事を聞きながら、支え合えるような関係を築くことが出来るように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合い、協力しながら一緒に支えていく事が出来るように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り支援出来るように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握に努め、よりよい関係が出来るように努めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方の面会を行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と協力し個別に希望や意向の把握に努めていけるよう努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の方や話を聞いたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握出来るように職員間で情報を共有出来るよう申し送りを行なっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや定期会議等や日頃の会話等の気づきを介護計画に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記入はしているが介護計画に反映出来る部分と活かせてない部分がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り行なえるように努力しているが今後も要望に応じた支援が出来るように努めていく		

グループホーム すずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源としてスーパーや提携病院や商店街を利用者様の心身の調和を保ちつつ希望や意向に沿える様に日々の「体調管理」を行ないつつ支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の希望に沿った病院受診をしているが、ご家族の付き添い不可の場合は介助費の同意を得た上で、付き添い支援をしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師や当直看護師に相談しながら支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中面会に行き、主治医や地域連携室との情報交換を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針については家族との同意あり。出来る限りご家族やかかりつけ医師との話し合いを行なっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	契約看護師の協力にて訓練を実施しているが全員が同じレベルではない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルあり。法人及び地域の方の協力体制あり		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の現状に合わせた声の大きさ等に配慮職員同士が気をつけるように心がけているが十分でない所もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴する事を大事に出来るだけ自己決定が出来るように働きかけ実践できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室への外出支援等行っている。個人の意思を確認しながら出来るだけ行なう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りはしていないが、盛り付けや配膳、片づけ、おやつ作り等は一緒にしているがメニューに対して不満もあり		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立でカロリー計算された食事を提供。状態変化等その都度栄養士へ相談、報告している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の能力に応じた支援及び訪問歯科の往診もあり		

グループホーム すずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録あり。排泄パターンの把握に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を及ぼす影響の理解している。排便状況、水分量個別に記録あり。個別に状況に応じた対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に沿えるように支援しているが、安全確保の部分において、職員不在で困難の場合は希望に沿えない場合あり		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に希望や状況に合わせて支援するように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての重要性は理解あるが利用者全員の内服についての把握は十分でない所もある。新規の内服薬については効果及び副作用注意点は申し送り度その都度説明している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の能力に合わせてして頂いているが負担にならないように気をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿えるように努めているが送迎車の時間制約もあり、家族同意の上タクシー利用での外出もある		

グループホーム すずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人様と話し合いしながら状況に合わせて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次ぎ支援等行ない、居室内限定も携帯電話も利用可		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室は清潔に心掛け共有スペース及び玄関は季節の飾りつけを行ない四季の変化等を心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	完全には出来ていないが出来る限り不満がない様に配置に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の方が相談し馴染みの家具や必要な物を揃えている。希望も踏まえ模様替えの支援もしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた表示の工夫をしており、今後も状態に合わせてその都度工夫していく		